



# まちづくり 元気塾®

地域活性化に向け  
魅力的なまちづくりをサポート  
東北電力 地域づくり支援制度

## 目次

- P2 まちづくり元気塾とは(制度の概要・特長)  
P3 アドバイザーボード座長・岡崎 昌之氏 インタビュー  
アドバイザーボードメンバー紹介  
P4~5 ふじさと元気塾 秋田県藤里町  
P6~7 柳橋町内会 福島県郡山市  
P8 2017年度支援団体の紹介

東北電力は地域が直面する課題の解決に支える組む団体の活動を支援する制度「まちづくり元気塾」に取り組んでいる。今後も魅力的なまちづくりをサポートする同制度をさらに充実させていく考えだ。本特集では同制度の概要や今年度の事例を紹介するとともに、元気塾でこれまで支援した団体を取材。元気塾を通じ発見した地域の魅力や現在の活動、今後の展望について聞いた。



集合研修型の元氣塾「マスターコース」における団体間の交流の様子

まちづくりパートナーは地域が抱える課題の本質を見極め、直接助言するほか、先行事例を紹介。同時に、ワークショップなどの実践的なサポートを通じ、観光資源や特産品など地域に特長を誇るサポートも行う。地域住民と協働するパートナーとして、まちづくりを同じ目線から考え、支援することが役割だ。これらパートナーの支援を受けたい団体は、目の手で地域の活性化につなげていく。また、集合研修型の元氣塾「マスターコース」も行っている。これまでに支援した団体が一堂に会し、まちづくりパートナーと話や他団体の活動報告から今後の活動へのヒントを得る場。複数の団体が交流を通じて「対付き」を得ると同時に、新たなネットワークの形成に役立っている。

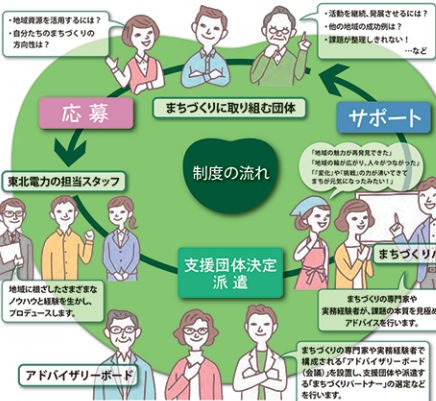
元氣塾は2016年度の開始からこれまで累計32団体の魅力的なまちづくりを支援してきた。これらの活動内容は、東北電力のホームページに掲載しているほか、年度ごとに発行する活動事例集などで紹介している。

## 制度の概要・特長

# 地域の成長・発展に「寄り添う」

東北電力が展開する「まちづくり元氣塾」は、東北電力と新潟県で地域活性化に向けて地域が直面する課題の解決に取り組みする支援する制度。個性や活力にふれるまちづくりの実現というゴールに向け、専門家の派遣を通じて、地域住民の活動をサポートするものだ。同社の「サポートスロガ」により、そこから「おもしろい」とも、地域の成長・発展に「寄り添う」取り組みとして展開している。

まちづくりの専門家や実務経験者が構成される「アドバイザーボード」で支援団体を選定。地域のニーズや課題に合った専門家「まちづくりパートナー」を派遣するとともに、「アドバイザーボード」のメンバーは「アドバイザー」としてまちづくりをサポートする。



### 年間スケジュール【予定】

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	翌3月
9月1日～10月31日 募集期間		アドバイザーボードによる 支援団体の選定			支援団体決定 通知		まちづくりパートナー派遣 (3回)	



秋田県



藤里町

# ふじさと元気塾

地域の宝、掘り起こす

まちづくりパートナー 菊池 新一氏 代表取締役  
 協賛 高橋 博保氏 代表取締役  
 協賛 高橋 真喜子氏 代表取締役  
 協賛 高橋 真喜子氏 代表取締役  
 協賛 高橋 真喜子氏 代表取締役

お宝マップの調査を行う学生とまちづくりパートナー



お宝マップの作成に当たり、意見を交わす学生と粕毛地区の住民たち



## 藤里町のオススメ

藤里町の特産品、「白神山地まいたけ」。白神山地の清らかな水ときれいな空気のもと、圃床栽培されたマイタケに近い豊かな香りと味わいが特長だ。栽培の最盛期は9月から12月だが、年間を通じて栽培されており、一年を通じていつでもそのおいしさ味わうことが可能。天ぷらやきりたんぽ鍋、炒めもの、炊き込みご飯など様々な料理にマッチする。また、最近ではおいしさはもちろん、美容効果にも注目が集まっている。



白神山地まいたけを使ったお宝マップ

このほか、藤里町では「サフォーク種」と呼ばれる羊も特産品だ。町内では、ラムとマトンの中間で「ホゲット」という柔らかく臭みも少ない新鮮な羊肉を堪能することができる。

世界自然遺産 白神山地の麓に位置する秋田県藤里町。人口減少や高齢化が進むこの町で、地域活性化に取り組む団体が「ふじさと元気塾」だ。2010年の活動開始以来、粕田の保全や高齢者宅の修繕支援、買い物支援といった活動などに取り組むと同時に、秋田県内で地域貢献活動に取り組む大学生グループ「A.C.R.A.」と協力し、地域住民との交流活動などを行っている。

そのような中、地域活性化をさらに加速させようと「まちづくり元気塾」に応募し、本年度の支援団体に選定。「共助の考えを生かして大学生と一緒に

地域を支える仕組みづくり」をテーマに、A.R.C.の学生と一緒に活動に取り組んだ。まちづくり元気塾の活動として、まず取り組んだのは参加者の思いの共有。地域住民と大学生、まちづくりパートナーが協力して藤里町の強みと弱みを抽出。これらをもとに、取り組んでいきたいことを「夢語り」としてまとめ、目指していく方向性を話し合った。

その中で浮かび上がったキーワードが「地域の宝」だ。これを徹底的に掘り起こす活動として、まちづくり元気塾が取り組んだのは町内の粕毛地区を対象とした「お宝マップ」づくり。参加者が地区内の各戸を訪ね、自然や食べ物、珍しい特技を持った人、財力などについて聞き取り調査を実施。結果、アユなどの川魚が豊富な点や料理名人が様々な「お宝」が地区内に存在していることが判明した。

お宝マップを生かし、ワークショップで行われたのは、お宝ふじさと元気塾やA.R.C.だけ。お宝マップの発表に熱心に関与する粕毛地区の住民たち

## 大学生と協力し知恵絞る

毛皮地区を対象とした「お宝マップ」づくり。参加者が地区内の各戸を訪ね、自然や食べ物、珍しい特技を持った人、財力などについて聞き取り調査を実施。結果、アユなどの川魚が豊富な点や料理名人が様々な「お宝」が地区内に存在していることが判明した。



お宝マップの発表に熱心に関与する粕毛地区の住民たち

でなく、粕毛地区の多くの住民が参加し、活発な意見交換を行った。まちづくりパートナーからは、「無理せず、楽しくやること」が持続可能な活動の秘訣として、関係者に練る方など、外から関わり続ける人までできるだけ巻き込み、交流していくことが大切」といった助言があった。

その中で出てきたアイデアは、農産物や地元産品を使った農家レストラン、地区の情報を知らせる広報紙の発行、地区の歴史や名所を知する散歩ツアーなど、まちづくり元気塾の活動から生まれたこれらのアイデアをもとに、参加者は積極的な活動を開始した。



実際に農泊事業を行っている民家の外観

「ふじさと元気塾」の発行者、元気塾代表理事の藤原弘章さん。現在は、農泊事業の推進を目的として、地域の活性化を推進している。現在は、農泊事業の推進を目的として、地域の活性化を推進している。現在は、農泊事業の推進を目的として、地域の活性化を推進している。

「ふじさと元気塾」の発行者、元気塾代表理事の藤原弘章さん。現在は、農泊事業の推進を目的として、地域の活性化を推進している。現在は、農泊事業の推進を目的として、地域の活性化を推進している。現在は、農泊事業の推進を目的として、地域の活性化を推進している。

まちづくり元気塾での活動を経て、粕毛地区では地域活性化に向けた取り組みが次々と実を結んでいる。まず実現したのは広報紙「粕毛毛」の発行。地元住民や粕毛地区を離れた地元出身者を対象に地区の身近な話題などを知らせる。17年2月に第1号が発行されており、今後発行が予定されている。

農泊事業では、地区内の6軒が農家民宿を開業。17年8月からの受け入れ数は既に100人超と予想20人を大幅に上回り、好調なスタートを切っている。「若手東遠野市

## 6軒が農泊事業を開始

で農泊事業に取り組みの方々を視察させて頂いたことが、住民のやる気にもつながると話すのはふじさと元気塾理事長の藤原弘章さん。この視察によって自分たちが農泊を営むイメージが明確になり、一気に開業まで実現した。そうだと、農泊を営む住民からは「一感動の言葉がもたらした」がうれしく、「最近では仕事も慣れ、工夫や改善案を自分で



宿泊客を迎える農家民宿の玄関

また、東北電力は17年11月にまちづくり元気塾のフォローアップを開催。農泊事業や農家レストラン、開業を進めるうえでの悩みや課題を整理し、解決に向けて丁寧な意見交換を行った。

現在、ふじさと元気塾が力を入れて取り組んでいるのは、農泊事業を持続的に実施していくための仕組みづくり。担い手はほぼ高齢者のため、農泊を粕毛地区の観光資源として維持していくには若者の参加が欠かせない。新たな担い手確保のために研修を実施するなど、取り組みが始まっている。まちづくり元気塾で得られた成果を次の世代へ「ふじさと元気塾の歩みは止まらぬ」



### チーフパートナー

#### 菊池 新一氏

認定NPO法人  
遠野山里・暮らしネットワーク会長

ふじさと元気塾が取り組んでいたのは、高齢者宅の除雪支援や買い物支援といった共助の活動を軌道に乗せることと、雪国の過疎の集落ではどこでも抱えている問題とどのように解決して地域の活性化に結びつけるかという点でした。

まちづくり元気塾では、以前から藤里町での交流活動に関わっている「ARC(アーク)」という地域活性化に取り組む秋田の大学生グループとうまく連携することが、課題を解決する「カギ」になると考えました。

まずは、「地域の魅力」をそこで暮らす住民自らが認識するために「地域のお宝マップ」づくりを行い、この活動に多くのARCの学生が積極的に関わりました。その効果は計り知れないものでした。結果として、このお宝マップをきっかけに住民の関心が高まり、様々な活動が活発に行われるようになりました。そして、当初はやや消極的と思われていた女性たちの活動への参加が目覚しく、あっという間に6軒の農家民宿が誕生し、17年8月の開業からすでに120人を超える宿泊客を受け入れる状況になりました。さらに農家レストランを開業することも決め準備を進めるなど活動の流れは止まっていません。

ARCにとっても、継続的に活動に参加しながら、メンバーの学生たちが自身が成長する機会となり、彼らがこうした活動に関わることはたいへん意義深いことです。

このように、地域には少しのきっかけがあれば動き出す「活力」「人材」が潜在しており、そのチャンスをつくるまちづくり元気塾の役割は大いだと考えます。



### 特定非営利活動法人 ふじさと元気塾理事長

#### 藤原 弘章さん

私たちふじさと元気塾では以前から地域の活性化を目指し、大学生と協力しながら様々な活動に取り組んでいました。その活動をさらに加速させようと応募したのがまちづくり元気塾。農泊事業の実現や粕毛地区の発行など多くの成果が生まれ、地域が強かになり始めています。

まちづくり元気塾の活動の中で一番うれしかったのは「お宝マップ」の作成を通じて、地域の魅力を再発見できたこと。まちづくりパートナーの方から助言を頂いた。名所や食べ物だけでなく、「人材」を見付けるといった視点を生かし作成したお宝マップが様々な成果に結び付きました。このほかにも、「ここ」にあるものを使って、「ここ」にいる人たちが、「ここ」の土地でやるのが何より大切」という考え方も感銘を受けました。

住民の方々にも変化が生まれており、地域活性化の取り組みに対して「自分たちがやるんだ」という思いが共通するようになりました。特に女性の方々の頑張りや行動力は目を見張るものがあります。同時に、行政からの理解や応援も広がってきました。

まちづくり元気塾で得られた様々なノウハウを生かして、この動きを粕毛地区だけでなく藤里町全体に波及させていけるよう、今後の活動に取り組んでいきたいと考えています。

福島県

郡山市

# 柳橋町内会

歌舞伎と食資源、組み合わせ

まちづくり  
 パートナー  
 橋立 氏 作新学院大学 名誉教授 岡崎 氏 法政大学 名誉教授  
 遠夫 氏 氏 氏 氏 氏 氏  
 本田 氏 氏 氏 氏 氏 氏  
 ひまわり学 代表取締役 田村 幸夫 氏 JAはが野 理事

## 地元食材生かし、メニュー開発

福島県郡山市には江戸時代後期から200年以上にわたる地域ぐるみの公演「柳橋」が受け継がれてきた市指定重要無形民俗文化財「柳橋歌舞伎」がある。この歴史ある郷土芸能の担い手にして、地域活性化に取り組んでいる団体が町内会「柳橋地区の「柳橋町内会」。これまでに大学生と協力した特産品開発やイベントの開催、農業体験を通じた都会の住民との交流事業などを行ってきた。地域活性化に取り組みする生まれてきたのは、住民自らの手で守ってきた歌舞伎を生かして地域に生かすを取り戻したい。農家レストランのようにな住民同士が交流できる場

をつくりたいという思い。これらの夢の実現に向けて新たな知見を得ようと「伝統芸能（柳橋歌舞伎）を核とした取り組みによる地域経済と文化の活性化」をテーマにまちづくり元気塾に応募したところ、2016年度の支援団体に選定された。

「一人暮らしの高齢者を対象に弁当」の試作販売を行い、料理を提供するなどの順調な活動を展開してきたが、課題も見えきた。歌舞伎公演には町内のほぼ全員が役者や裏方として参加するため、当日は誰もが忙しく弁当づくりの時間がない。また、農家レストランも場所の確保



地域住民も試食に参加。農家レストラン開業に向けて様々な意見を出し合った



ワークショップの様子。地元の食材を持ち寄り試作づくりを行った

## 柳橋地区のオススメ

郡山市の重要無形民俗文化財に指定されている柳橋地区の伝統芸能、「柳橋歌舞伎」。その歴史は古く、天領であったため芸能への規制が緩やかだった江戸時代に、地元の菅布瀧(すがふね)神社の祭りで村人が芝居や歌を楽しんだのが始まりと言われている。明治時代、興行の取締りや規制が多くない、何度も中断に追い込まれたが、地区ぐるみの支援で現在まで連続と受け継がれてきた。

役者から裏方まで全てが地域住民による手づくりの舞台はまさに必見。演目は「義経千本桜」など15本以上にのぼり、大人のほか、地元中学生による演技も披露される。毎年9月に開催されており、華やかな歌舞伎を一目見ようと県内外から多くの観光客が訪れる。



柳橋地区で毎年9月に開催される歌舞伎公演



まちづくりパートナーから地元の食材を生かすことの重要性についてアドバイスがあった

可能な太極き舞司ならどうか」という声。歌舞伎の舞台で使われる3色の引籠(きりかぶ)をイメージした太極き舞司の試作づくりが行われ、17年公演への提供に向け検討が行われた。また、農家レストランにおいては、空き家だった民家を活用する交渉がまとまったため、元気の参加者を中心にレストランの運営を行う「柳橋きりかぶ」を結成。多くの住民の協力を受け、空き家の改修やメニュー開発、保健所の申請などが急ピッチで進捗することとなった。



# 2017年度「まちづくり元気塾」

支援団体  
紹介

2017年度は4団体の支援団体を対象に、まちづくりパートナーによる講義や、地域の魅力を再発見するワークショップなどが活発に行われてきた。元気塾を通じて、それぞれの地域に暮らす人たちが、地域の「強み」と「弱み」を知り、地域資源の発掘や課題解決に向けて取り組んでいる。地域が目指す将来像と、そこにたどり着くまでのアプローチを、まちづくりパートナーとともに検討してきた4団体の取り組みを紹介する。

秋田県  
能代市

特定非営利活動法人 能代観光協会

## 地域資源を活用した滞在型観光の推進による能代市への誘客促進

世界自然遺産・白神山地の玄関口として多くの観光客が訪れる秋田県能代市。能代観光協会では、こうした地域の自然や文化、産業を取り入れながら、現状の「通過型観光」から「滞在型観光」へシフトさせ、交流人口を拡大させ、観光振興につながるまちづくりを目指している。元気塾のワークショップでは、能代駅周辺の高田町で地域資源を再発見するためにまち歩きを行い、「お宝地図」を作成するなど、「観光客を50万人呼び込む」ためのアイデアを出した。また、これを基に、「イベント」、「既存の地域資源」、「食」の3テーマについて検討を重ね、実践につながるアイデアを絞り込んだ上で、「誰が」「どのように」実施していくのか具体的な検討体制を議論。目指す「滞在型観光」へのシフトに向けた準備を着々と進めている。

農事組合法人 湯の郷

岩手県  
花巻市

## 花巻南温泉峡など地域資源を活用した観光と農業の連携

農事組合法人湯の郷は、「山間地の活性化」を住民参加型のまちづくりで実現することを目指し、地域資源である花巻南温泉峡などを活用した観光と農業の連携をテーマに活動を行っている。元気塾では、まちづくりパートナーから、山形県かみやま町で活動している、温泉・食・食・ワークを組み合わせた健康づくりツアーの紹介を受けたほか、地域資源を活用した商品開発・ブランド化の進め方アイデア実現に向けた予算化・スケジュールの設定などについてアドバイスを受けた。また、ワークショップを通じて、特産品のしいたけ、そば、タマネギなどを活用した商品開発、温泉峡周辺のワーキングツアーや、農業体験といった観光を目的とした企業などのアイデアが生まれた。現在、そのアイデアを具体的な成果に結びつけようとする取り組みが進められている。

まちづくり  
パートナー

代表 藤田 隆夫  
副代表 藤田 隆夫  
事務局 藤田 隆夫  
事務局 藤田 隆夫  
事務局 藤田 隆夫



まちづくり  
パートナー

代表 藤田 隆夫  
副代表 藤田 隆夫  
事務局 藤田 隆夫  
事務局 藤田 隆夫  
事務局 藤田 隆夫

まちづくり  
パートナー

代表 藤田 隆夫  
副代表 藤田 隆夫  
事務局 藤田 隆夫  
事務局 藤田 隆夫  
事務局 藤田 隆夫



まちづくり  
パートナー

代表 藤田 隆夫  
副代表 藤田 隆夫  
事務局 藤田 隆夫  
事務局 藤田 隆夫  
事務局 藤田 隆夫

## 「花のまち高田プロジェクト」を通じた地域の活性化につながるまちづくり

「日本三大夜桜」や「東洋一の蓮」など花の名所として知られるとともに、江戸時代以来の城下町の風情が残る新潟県上越市高田地区。城下町高田花ロード実行委員会は、この趣のある町で、花とアートをテーマにしたイベント「花ロード」や、個人宅の庭などを公開するオープンガーデンなどを実施し、地域活性化につながるまちづくりを目指す団体。元気塾では、「花のまち高田」の実現に向けて、どのような視点やアイデアが必要か議論を重ね、具体的なイベントやそれを継続的に実行するための組織づくりについて検討。「花のまち高田プロジェクト」を考えた」と題して実施したワークショップでは、メンバーそれぞれが考えたアイデアを発表・整理し、活動の方向性を確認し合った。こうした議論を経てアイデアを絞り込み、今後、四季を違ったイベントの開催などの具体的な企画を実行に移すため、体制を整えていくこととしている。

## 地域資源を活用した交流人口拡大につながるまちづくり

明治時代の洋風建築などが残り、「みやぎの朝治村」とも呼ばれる奈良県高市郡。とよま絆の会は、まちの魅力を生かしながら交流人口を拡大させ、地域活性化につながるよう取り組む団体。元気塾のワークショップでは、地域をあらためて見直すため、「奈良をどんなまちにしたいか」をテーマにグループディスカッションを行った。そこで出たアイデアに基づき、「歴史文化を大切にするまち」①「自然景観・遊歩みと文化施設を大切にまち」②「女性と若者が輝くまち」の3つに絞り込み、より踏み込んで議論。検討結果を踏まえ、奈良の魅力を活かす役割を担う組織の設立と、奈良県交流スペースの整備を目指して具体的な検討を始めるとともに、新たな組織の核となる人材をどうするか、出資者をどう募るかといった課題解決に向けて取り組んでいる。

新潟県  
上越市

城下町高田花ロード実行委員会

とよま絆の会

宮城県  
登米市